2010年4月の格言

平成２２年４月の格言は

奨励金制度なるものは、
それがどのようなものであれ、
事業経営においては
絶対に取り入れてはならないということである。

社員は、それぞれの考えをめぐらして、
奨励金がもっともたくさんとれると思われる行動をとる。
各人の勝手な行動によって、会社の中はバラバラになってしまい、
会社の力を一つに結集することなど思いも及ばなくなる。

だからといって、これを規制しようとすれば、
社員は「行動を規制されたら、
もっと奨励金がもらえると思うことがあっても、 それがやれなくなる」
という受け取り方をするに決まっているのだ。

奨励金というものは、
「各人は自分勝手な行動をとってもよい」
という意思表示に他ならないのであり、
これは、まさに経営権の放棄であり、いささかオーバーではあるが、
それは社長の社会的責任を自覚しないことである。

一倉定先生著の社長学　第３巻　「販売戦略・市場戦略」より